

“オール作新”による

令和6年能登半島地震復興支援チャリティーコンサートに寄せて

作新学院高等学校吹奏楽部チーフ顧問 三橋英之

本日は「オール作新による令和6年能登半島地震復興支援チャリティーコンサート」にご来場下さり、誠にありがとうございます。被災された方々に心よりお見舞いを申し上げます。また、私たちの演奏で、少しでも元気になっていただければ幸いです。

さて、本日のコンサートで着用する衣装は、縁あって石川県立珠洲実業高等学校吹奏楽部（マーチングバンド）から譲り受けたものです。珠洲実業高校は能登半島の先端に位置する珠洲市に立地しており、これまでマーチングバンドとしてコンテストで輝かしい成績を収めてきました。また、アメリカのローズパレードを始め、海外遠征も実施してきたバンドです。地域の方々も心から応援し、愛されてきましたし、演奏・演技は地域の皆さんに勇気を与えてくれました。

ところが、2010年の3月末で、石川県立飯田高等学校に統合する形で、珠洲実業高校は惜しまれつつ閉校となってしまいました。その後も思い出の詰まったユニフォームは大切に保管されていましたが、2020年についに処分をしなくてはならなくなりました。このことに心を痛めたのが、当時顧問として指導にあたっていた喜多忠男先生でした。先生はこの大切なユニフォームを何とか残せないかと考え、旧知の仲である石川県マーチングバンド協会の理事長である山田正俊先生に相談を持ちかけたところ、作新学院高等学校吹奏楽部が譲り受けることになりました。山田先生は1996年から2019年まで私たち作新学院高校のマーチングの講師として指導していただきました。ですから、私たちがマーチングのユニフォームを持っていないことも承知していました。このような経緯から、譲り受けることになりました。

それ以来、いつの日か珠洲の地で演奏する機会を夢見ておりました。そのような折、ちょうどタイミング良く2023年の国民文化祭が石川県金沢市で開催され、私たちはマーチングバンド部門に出場できることになり、その折に珠洲市まで足を伸ばし、公演を実現することができました。2023年5月にも大きな地震があり、被害を受けていたこともあり、復興の願いを込めたコンサートでもありました。珠洲市にある「ラポルトすず」で、多くの方々の思いが詰まった赤いユニフォームを着用して、演奏をしてきました。当日は600人の席が満席となり、素敵なコンサートになりました。

私たち吹奏楽部では、すでにパレードやステージドリルショーなど機会あるごとにこの赤いユニフォームを着用し、とても愛着を感じております。おかげで、吹奏楽部では座奏で着用しているブルーのブレザーと2種類の衣装を持つことができ、雰囲気に合わせてそれぞれを使い分けて着用してきました。2023年3月には甲子園で開催された第95回全国選抜高等学校野球大会（ベスト8）でもこの赤いユニフォームを着用し、アルプススタンドで応援演奏をして参りました。当時指導されていた喜多忠男先生もご夫妻でスタンドに来場され、その勇姿をご覧いただきました。また、大勢の珠洲の方々も私たちがテレビで演奏している姿を見て、とても感動したとのコメントをいただくことができ、大変嬉しく思いました。改めてこの両校を繋いでいただいた山田正俊先生と喜多忠男先生のお二人には心より感謝を申し上げますとともに、多くの珠洲の方々に愛され、たくさんの思いが詰まった赤いユニフォームを今後も大切に守っていきたいと考えています。そして、何より一日も早い復興と普段の生活が戻ることを心からお祈りするとともに、私たちは「オール作新」で全力を挙げて復興支援に協力していきたいと思います。

